

共利群生の もりをめざして



完成した山門にて山口部長と宇賀住職



淨徳寺と100年以上の関係がある奥谷組代表と宇賀浩生師現地にて

奇跡の森林

総本山金剛峯寺 山林部長 山口 文章

「木を見て森を見ず」ということわざがあります。

目先の物事にとらわれすぎて、全体を見失ってしまうことを意味しています。

戦後の日本林業は大面積の山林を一斉に造林し、成林時には一斉に皆伐するドイツの林業理念を基本としてきました。そのため、農業のように同一の規格・品質の木材を生産するため、山林の密度管理（単位面積あたりの本数制限）を中心とした施業が崇拜されてきましたのです。

しかしながら、戦後五十年を経た頃、全国で一斉に伐期を迎えた森林の材木価格は暴落し、安価な輸入材の増加と近代化による日本家屋の減少がこれに拍車をかけました。経済性を失った広大な面積の山林は放置され、さらに山林の荒廃を招くこととなりました。それは、日光や風、水の流れ

れ、土の成分などに代表される自然環境を重視してこなされた結果であり、言うなれば経済性至上主義の「木を見ず森も見ず」であったのかかもしれません。

一方、高野山には日本を代表する美林が存在するだけではなく、その美林は経済性も失っていません。

高野山の美林は経済性よりも信仰環境の保全を重視していました。一本一本の木に手間をかけ、我が子を育てるように大事にしてきたのです。大自然の恵みを精一杯吸収できる環境を整備し、厳格な山林の保護政策を千年間続けたことにより、高野山には奇跡の森林が完成したのです。その先には弘法大師への篤い信仰があることはいうまでありません。

金剛峯寺山林部は、これからも高野山の信仰環境を保全するため「木を見て森も見る」山林施業に邁進いたします。多くの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

金剛峯寺森林經營計画

平成30年度から5年間の経営計画樹立に向け今年春から調査を開始いたしました。

これは所有山林を造林・間伐等の

計画する為の調査で、山口部長も弁当持参で同行視察されました。去年10kg以上のダイエットをされ、急勾配の山道を職員より軽快に歩く姿に驚きました。



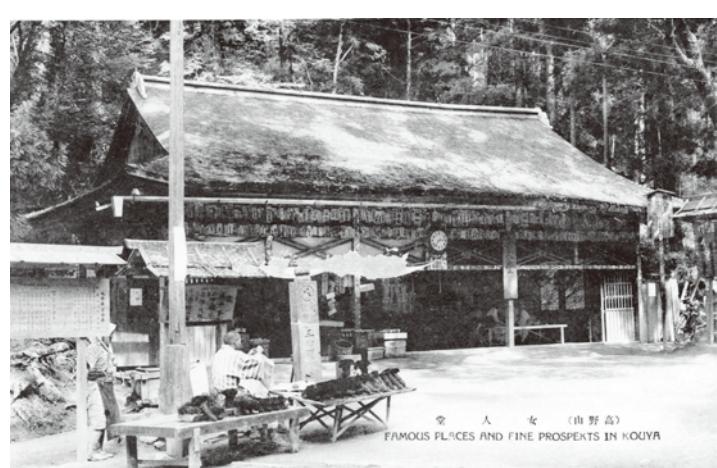
この調査に伴つて所有山林の境界に管理杭にナンバーを入れGPSにて座標を取つてパソコンで図面管理が出来るシステムを導入しました。

職員それぞれが持つている図面は既にボロボロになつていましたがデータで管理出来るので引き継ぎが容易になつて安心しています。

「まんねんぐさは、いかがですか。」とコケの束を並べて参詣客を呼ぶ露天に見られるのは、コウヤノマンネングサであります。

もともと高野山の靈草として深い信仰心から持ち帰つたとされるコケは、いつか

らか観賞用の土産と変わつていったようです。靈草のいわれとして「弘法大師御廟のほどりに生息し、これを保管し、家人の旅人の生死を占い是れ大師の加持力なり。」



高野山銘木の跡をたずねる

コウヤノマンネングサ

枯れたコケを水に浸すと旅人に何事もなければ青々とよみがえると言われ弘法大師に帰依した人々の間で珍重されてきました

と察しられます。昔の旅の困難さと留守をまもる家族の心細さをはかることが出来ます。

一度枯れたマンネングサを水に浸して見ましたが緑色に変わりませんでした。携帯電話すぐに連絡ができる時代となつた今、願掛けの必要も無くなり神秘的な力も薄れてきたのかもしれません。

高野山銘木の跡をたずねる

と
ちょつ
ええ
話

「金剛峯寺は未完成」

皇攘夷等と声が上がり、世相も乱れ国内情勢が不安な時期でもありました。

金剛峯寺は明治以前、青巖寺と呼ばれ豊臣秀吉が亡き母のために天正20年（1592）創建しました。後に3度の火災に遭い現在の建物は文久3年（1863）落慶です。

さてこの金剛峯寺には不思議なところがあります。それは玄関の透かし彫りに関することです。玄関には縦約1m20cm横約2mの花弁模様の透かし彫りが東西に6枚がはめられています。その中の東側、透かし彫りの外側の一部に彫りが無い部分『未完成』があります。案内人の方や寺内の者の説明に「一部仕上げていないのは、完成時から建物の老朽化が始まるのであえて『未完成』として、まだ建築中としている。」と言ふ説明を聞かれます。似た様なお話で、日光東照宮陽明門の逆さ柱があります。「建物は完成から崩壊が始まる。」という伝承を逆手にとつてわざと柱を完成させず、災いを避けるために逆柱にしたと伝へられています。

今回はこの『未完成』について考えたいと思います。それにはまず金剛峯寺再建当時の世相を見てみたいと思います。

この時代、高野山は天保14年（1843）の9月1日夜10時頃壇上伽藍から出火する大火災が起きました。寺社奉行に再建許可を願い出ますがなかなか許可が下りず、凡そ6年ほどの月日がかかりやつと許可が下されました。同じ頃、幕末の日本に於いては、アジアに進出してきた欧米列強の圧力に押され鎖国、開国、尊

成』の透かし彫りにまで、考えが廻らされたか少し疑問が残ります。また透かし彫りの無い部分を見るに、何ヵ所か彫った場所と彫ろうとしたノミ痕が残っています。そしてなにより金剛峯寺裏手にある護摩堂の本尊不動明王像の三角形火炎光背には【嘉永元年（1848）9月吉祥日・奉新彫刻安置東塔脇士・不動明王龍光院・増応】と有ります。これは伽藍再建後の東塔に納めるべき不動明王を急遽、金剛峯寺護摩堂の本尊としたと考えられます。また焼失から再建の工期の早さも上げられます。この様に増応僧正は金剛峯寺再建を急ぎ、自分のケジメとして落慶時期を考え『未完成』のまま取りつけたという推測も出来ます。（増応僧正検校中の任期内完成をめざし。文久2年まで奉職）

結論として『未完成』の透かし彫りに関して、意図的な工作。また納

期の期限と二つの見方が出来ますが、いずれにせよ金剛峯寺の歴史、また幕末の高野山のあり様を知る上で、良い題材です。どうか皆様も金剛峯寺に参拝されたさいには『未完成』の透かし彫りを覗いて、思いを巡らして頂ければ拝観の一つの楽しみになると思います。皆様の参拝を心よりお待ちしております。



金剛峯寺表玄関の透かし彫り

参与会

比叡山延暦寺管理部の 森林研修

日本ブータン友好 記念植樹

平成29年版
予約受付中<限定1000本>

献木一口2,000円 販売価格3,500円

なお、一回に五口の献木を
いただいた方に一本進呈致します。

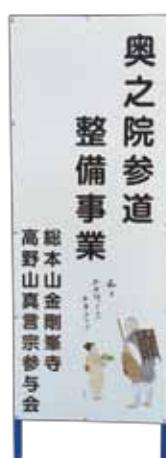


男女兼用

一口2,000円の記念品が宝来
ハガキから念珠に変更となります。
11月1日より変更
させていただきます。

高野靈木
五色腕輪念珠

一口2,000円の記念品が宝来
ハガキから念珠に変更となります。



「奥之院大杉保護管理事業」
一の橋からスギの大木(和歌山県天然記念物指定)が約1,400本立ち並んでおりますこの中に
はワイヤーで控えられたスギが40本あります。ワ
イヤーの設置から30年が経過しており5年間をか
けて順次張り替えの計画を樹立いたしました。
調査にあわせ枝払い・枯木等の危険と判断され
るもののが65箇所あり同時期に整備をすることにな
りました。

この事業は参与会奥之院参道整備事業としてす
すめてまいります。

2月10・11日の2日間、比叡森林継承プロジェクトメン
バー12名が高野山にて山林部と合同森林研修をおこない
ました。

比叡山と高野山両山共に広大な山林を所有しております
「伝教大師の衣の森」の継承についてはともに理念と責務、
抱えている課題も一致しております。

この研修にて1日目に山林部
が行っている施業の超長伐期の
特徴と尊厳護持について、2日
目に実際に山林の現況を視察し
て頂きました。100年・200
年と木を育てるには歳月が必要
で今できることを確実に実施し
後世に引き継ぐ為これから両
山も同じように時間をかけ交流
を続けて行きたいと思います。



会報バックナンバーはこちら

<http://koya-forest.jp/blog/>

山林部ブログ

検索

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座: 大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行: ○九九支店 当0061758
加入者名: 宗教法人 金剛峯寺山林部

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640
E-mail: sanrinka@koyasan.or.jp
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。